

校長室だより

学校教育目標「学びを生かす子供」

八代市立龍峯小学校

校長 村嶋 博史



R3,6,7

NO.9

タブレットパソコンを活用しています

昨年度、八代市の全小中学校にタブレットパソコンが配布されました。そして、今年度は、その積極的な活用が求められています。

本校においても授業や家庭学習で活用し、学習効果を高めています。子供たちの習得の早さには驚いています。



授業でタブレットパソコンを扱う児童

挨拶は自分から先に心を開く行為です

本校では、学校教育目標である「学びを生かす子供」の育成に向け、その土台づくりとして「やつしろスピリッツ」（あいさつ・ききかた・そろえかた）の徹底を学校総体で取り組んでいます。今回は、その中の挨拶についてその現状等をお知らせします。

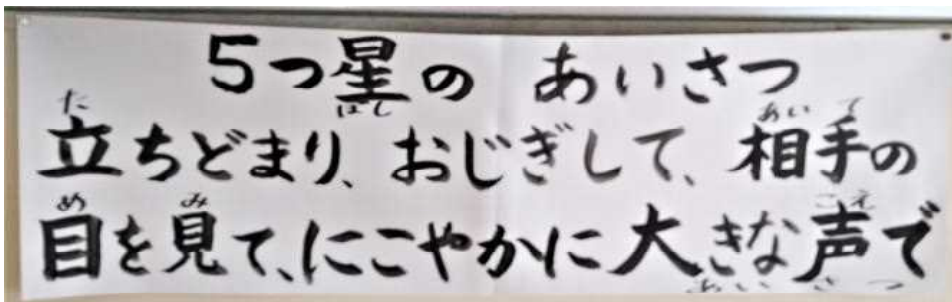
挨拶の「挨」（あい）の訓読みは「ひらく」で、意味の一つに「近づく」があります。また、「拶」（さつ）の訓読みは「せまる」で、意味の一つにこちらも「近づく」があります。つまり、挨拶とは、「自分から心を開いて、相手に迫り、お近づきになる」という行為だと考えられます。よって、「自分から先に挨拶をする」（自分から先に心を開く）ことを大切にすべきだと思えます。

人間関係を築く上でとても重要な行為である「挨拶」を、子供たちに早く身に付けてほしいと願い、毎朝7時30分から正門に立ち（時には清掃をしながら）、子供たちと挨拶を交わすようにしています。最近では、多くの子供が、二中校区で推進している「五つ星挨拶」をするようになりました。中には、遠くから大きな声で「おはようございます」と挨拶したり、にこっと笑顔で挨拶したりする子供がいて、とても温かい気持ちになります。

これは、最上級生である6年生が良い手本を示したり、運営委員会が中心となって「五つ星挨拶」を広める活動をしたりしていることなどが、好影響を与えていると思われます。

しかし、学校はあくまで挨拶を習慣づける場であり、地域の方々等に対して気持ちの良い挨拶（五つ星あいさつ）をしてはじめて「挨拶が身に付いた」と言えると思っています。

そのために、私たち学校職員は、相手より先に挨拶をし、その良さを伝え続けます。また、毎日数多く挨拶を交わすことで習慣化を図ります。ご家庭での取り組みもお願いします。そして、お子様が、地域の方々等にも気持ちの良い挨拶をしているのを見られましたら、褒めてあげてください。



校内に掲示してある運営委員会が掲げた「5つ星あいさつ」推進横断幕